春色梅児誉美巻の十二

江戸　狂訓亭主人著

第二十三齣の上

[illegible]

いひまはしてすこし[illegible]
うんしてさぞおもうてゐるアイ
今ハ二ちゃくあるましのこゝろばしてそこをうしろ
[illegible]
[illegible]
アイサまことにさうしてこうてうんしゅうと同じ
方ひろうして湯どのへと出ると
[illegible]
[illegible]さんさぞまづまりでおりしやうる
より第てのちゃのへのむづけ（コウ）長合しと祝でおるコトこもく
[illegible]の後の方らつのるに[illegible]

秋
[illegible]や作ひを返るのをきうこちよこうれがの[illegible]アイ
[illegible]んで用さるをちうゝかりしてあると[illegible]
[illegible]
いくうちゝとおもひ[illegible]アイサアこゝ[illegible]ト[illegible]
さ戸[illegible]ぴゝ[illegible]
ぎつぐしてゆうらう下よりうはう遠つく[illegible]
[illegible]
[illegible]

どやわり
[illegible]
まーヨ　サアリく　こせーの
くにの所のこなで　筋　[illegible]
ゆりくとあてこうーとと
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

「アレ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

「アイ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

しかるに[illegible]をまづ見てはこの始末どうしてもすぐんと後代いくらか湯どのくりの中の[illegible]に[illegible]後悔[illegible]その行[illegible]

[illegible]人法八何の[illegible]ぐ居[illegible]

いと[illegible]ちゃ[illegible]と来か「アイ湯ざわのまるいうち仕舞とーて

[illegible]イせう「イエマアちょっとお[illegible]「ヲやうんざらま

[illegible]「モシ[illegible]八さんマアあなたる通りの[illegible]居

琴屋のお職[illegible]後見[illegible]のまーざとく

[illegible]ふつつかさきちゃ外のお[illegible]が出来やせん

マア[illegible]も角も連く[illegible]うんを[illegible]私が代よ抱へさ女ごと

おもひまた仕法もあるぶ親方[illegible]けさ[illegible]

[illegible]ごろ[illegible]完[illegible]そマア何ようーよ後代とさ[illegible]や

[illegible]山[illegible]八その方ご[illegible]ぶ[illegible]ご[illegible]のうらく

[illegible]いまでの真[illegible]出来め[illegible]サア山[illegible]八[illegible]

[illegible]せ〇山[illegible]知[illegible]す[illegible]「ヲヤそうざ[illegible]

めを支度をおいてトまんとする紙屋きく「仕や
二階へハモウ参りませんコウ云ぶのやお扶ぶ
山ものの値段をこうちうを一枚よこ〳〵とそうい
く来や。エモシ藤八さん紙やのものハ山系物ば
とのひやせうがあんきりそう藤よ〳〵と書ものゞ
やもよくおぐさうぐ渡をこけおうこう渡しやう
まゞ今日このまゝおまへなあづけまをとさもゆくしく
云ておいて奥に入りる沼見送り彼藤八ゞ山系と紙

又合せくゝ変にあり「へエ紙方振やアゞ門ゝ大造な
つゝゝ表アがるモシおつゝん丁度那つゝり叶さうゞ不自
由でも奥にマアお出あまへまーと書もゆくく駄るまゝ
ゐまてる判人殊ゝ指打ゞ人らまー日の出の山系渡ハ
紙賀ひと智る紙を入さまやゞ我家へ引ゝる系唐紙
屋の二階ゝ出まをの紙屋さの山系の新紙
ゆゝゝゝ表ゝゝ表ゝゝ表ゝゝ表ゝゝ表ゝゝ
お初ゞ寄「教サア今の紙ゐ渡けへよさまゝ私ゝ情ゞ

ぎゝ子ぢ鬼名乗どんの復ドや氏乗さんとあてさんよ
乗ゝて自めゝの後見を仕我つけて旦那ゝたゝまてゝ不昌
ゝまゝが出来ぞとも働のあるおいゝんざゝゝ宇さん八家出
しても雑炊のまゞこのゝぶ今ゝまでの通りで並ゝたりのゝ
してゝんゝと氏乗さんが二枚もゝ下へ押さげゝまるゝ旦那
お旦食で新造出ゝでも主ゝさゝざゝあるめゝドやゝゝのい
ゝを主もあんまり言廉くゝしのと実においゝんの清我
何もかもぶちこゝまゝてこゝけでありまゝヨ

アイおゝゝざゝのおゝまゝゝんの大事ゝのものや
つゝり貴のゝのゝ私ゞ主人公ゝまゝぐる浮ゝりで雑炊ゝ行ゝゝ
ゝまゝく自まゝゝ我ゝて氏乗さんと中ゝのいく
おいゝん造よ内儀で我けゝのまゝ
しのせゝ子工我のよ乗のゝゝ言つけて尾張屋へ持ゝく
門ゝく金ゝて涙の窟ゝ濁八が方のゝ屋ゝて上
ゝさゝのまゝサアゝぶゝゝゝく主ゝまゝゝ下頭八鬼と言
ゝて内よゝゝゝゝ情のゝゝゝゝ

まあ知らるるぬるいうん遠へふ世つくるもをこのたるこび人
月夜ひとふをうを新やうとぎこと板家くうく板イエ〳〵
おまへぐこかめうこよさまちやア私ぶ級ずこをせんサアく
ろうよ一紙に産まへ来るまへおのうこんたでめあるくまこ
まぐこ成いらく〳〵ものうやア門所のまくいたにおうぐを二階
中へいぐきうまやきんモウく〳〵ぐく〳〵こひこけ成ち
あさこいまこあトあうへきうせるいこのうぐく門こうくを
けあやこの新造の為よのこあるやうよこをたうこひうり

第二十三齣の下

淵八瀬とあるるうこひ川付の流ま成箱〳〵山の宿仮宅
長屋の裏住居日向もうろき蔭八ぶ判人ゑまどを石ま印
堅ぶ商と活業に呉正直の貢ま〳〵やまのかこうろ世に
まうふ妻女結の倹約もうこね世帯のその中に折節
風邪の加ひよ女房お民ぶ一ぷでまうこね暮〳〵ゑまま
どこのせ門ひけてまそうり〳〵中へ山ま成あづけ
ふまてうま其日うりさまぶ鄭で全盛のあうに今日を零

ふくこと三度の食の栄耀ハ魚吉の甚兵衛ハ一ぱい
するめの醤油焼ハまづの物屋の主青お嬢といふまゝ
糸も活巻の上に麻巻ふくさ拡夷出掃の巻第ハ隠家
の人も振くり目に辰巳屋の貸蒲団そゝ屋敷の海
猴猿屋で買ゝ山も宮城中の月と貴賤をべ〜歌色
ふくく義不自由ハ雑文ふくく和案〜ふく女房おそ「ヲヤ
私ハ是ゝを切ふく居ゝ〜ぶ今春ハ出ゝ〜〜〜義さんが
お津賀さんの言葉と彩ゝとゝ〜ゝ〜ゝ式蓋物とお金成

ゝこゝ〜ゝてゝゝでハぶ〜つけざゝゝおゝ〜んが何ぞ怪ゝと
おつ〜ゝるのの紙買ゝく上ゝくおゝんゝゝゝゝゝゝゝ見
ゝさいこんみおい〜いのゝごゝゝゝゝ〜ト蓋物紙ひゝゝく出
せぶ付ゝハ「ヲヤ」伝切に嬉〜〜ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ハゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

らーの私やアまさ天遠きのとおもひイーと
八にもまそ「モシ工
ひか金人おのーん（とくまきそうこ「アレサおうーい私ガ指く
とりイーとてきてぶかッサせんおきそんそまでいる物成買な
ヤーヨ民「そまと どやアコるうでぐいやまと「コレサーいまたつまう
めくこをいの通延津がさんの後切ハ藝者に稀ゑことごけまど
いちぐまこ家の金成おのーんよ指ーておいことそまでやーう極（今に
ぐまでまきく泣で成いうるーいたるーて成ーてアいるれこそ
てんぐ自分のこハ家まそ指て行きまーーるんそとこまくりより

まく仕まひ通さうアそまでぐうーう津がさんガ物ぞ家で上
ろと兼さんよそうこまくよこーーこのハかーう宅の不孝金を
行つくおるうーうぐるみ民「そうさ極（トまきよ計来藝も計来「ヨヤ
まちき
私ハ好なのの成金さーーとショト「ちらハくるくきうーーめうすぐ
おもくーくーて成ものハおまりさんぐのうまりめもばうくいぐんぐろう民「りんよ極（モシちょうりと
ミまりと
おアんの通とこまで成いりつけて海の芸成まぞて山菜ぶ下れで
えうに成ぶおのうくおまきをヨ「そんまんにびっうまものぐいーッ
にうまんめ
で貧貝ある琉球革のれ事成ヤメまうよ民「ヨヤ物もびっ

うゐ人仕るのゝ子外国のコロウ「エイ」ゆうまゝ〜いそれよろ
ハえやく貴人の死をきゝ〜らくまつうんにこと葉お菓子でもあ
げる文度をきゝ人る氏「ハイ〜く」出れかこれにあるうゝいやゞへ
いやゞもの　ゞつ者「アレサ手いくホきものゝ〜ヨきりしたを
夫婦喧嘩ゞ〜ケたくさい逆そうゆりイ〜ゝさゞ嫁への
エゞありイせうゝ「イエモシ母ゝうん逆や娘ゞどもの子留
ゞやうたゝ思ふ男と一所よるうてきゝゞうゝ喧
嘩ゞまゝゝくゞゝあゝ〜ゝゞうゝまんゞと思ふのゝ世るの

あゝりゝゞ〜ゞ〜ゝ中ゞゞサそうゆうくゝゞゝでも出来て
ゞゞうゝゞゝ豆流よゝゝゞ出彩逆さんでも色きも意情も
きゝくゝまゝうゝく。エゝまゞうゝと月逆へらまるゝゝれゝりゝゝ
せゝりんゝ貧乏世帯ゝのゝくゞゝゞゝゝゝゝ昨日まで町
内の若元ゞ血乃をとゝくさゝのゞ姫でゝ出大騒を抱て
味噌ゝゝ双親ゝ本の家ゝ焼羊の八文も買ゝく書ゝゝゝゝゝ
あるゝまゞ鶴岡ゞくゝまゝてゝゝの祝ゝんゞと浪梅ゝゝ浪の
ゞりゝゝゝもゝまゝせゝゝ今の姫人親のゝつけゞゝりい

うちたをく亭主義のつくるこどもでも出産の祝儀うのと
ちがうよへぐらいのこのもうよ男門ちくぬるあんイヤそまうこと
もと無事ハハマア十人ぐらいの人めてるよ小児ハ春のへう通
人ハ老角おうちうん達をしもずり延ばぜトちうめ
ちうぐてん蔵ち中に表三人の七ッの達ボウシ〳〵一ヨヤく〳〵モウ七ッ極へ
一ヲニヲヤ〳〵今のうちうてもお屋と飯食と二ッ小ちうあの
らんぢうんぢ紙屋そくッてもちひのしうろう「イくエヨうんぢう
ちんまうんぢアイくぐうくろイせん実ハ先刻ぢう物ぢらよ

おうち「まうこちうんのてぢうこちうけぢあうこちうぢ
今にどうちうりまハハナちらうのくまきんもぜハ今日
あうりハ来ちうりそうかのものぢテ「イくエヨうちうさぐ新ちう
つうこちうハうぢまぢ廓ちうること思うくこで面目ちう
しいこちうとうも私のおうげぢうんぢこと今ぢ行ちうくんで
居うんちぢうこと思ひイこトちうちうのうちうぢ「ちう
うんでもうぢも表迷をこうんでも廓の日ハ根ハ立ちる
まづでぢぢハまハ「そうこに彼りのみイせんハうちやハ

るの間さ手洲でもころくッく途中う宮で第一のてゞ
あうふちまひうと寄ゞらまてく多りイせん「ナニ」くそき
やどのまきまひめ〳〵トこのうちまゞうが縁ゞそと「そしそ本
さんハ何知に當付お出ゞきこひまた子やりもう後器とやう
う子「イく工きうゞやアあゞゃせん矣義の城さん新さあくま
ハまてく長さッしゃるとのくとでみてイヒ「ハテ子その城さんの
お宅ハ「けふ「うに巣鴨とやゞくちッと「そのうハゞゞる
ふも無ゞとハあうまたあうまたあうこまこのゞこまこまわ

〜もハにの障子の外に女の声メ「ハイナットハ完ゞさま
ます「氏「ハイどまこエ「アノウ廊〳〵くお出の羅ハさんの契
おまくさんでゞゞいまひう「ハテテ嫁の声メゞゞ何ゞおくん矣
「こちくでゞゞいまた這へるさいまく〜「ハイト
障子表ゞゞうも主を主をの〜て這の〜ゞバ「氏「ナアくく
こちくおよりまさいます〜何の西用でゞゞいまた「西主
矣主こちくおよりまさハテとうんヤ〜とやうかう系
ゞゞとゞゞうまゞ根「ハイ矣〜くお逢ヤ〜ません「ちっきハ

廣瀬の娘の「ハイ」どうぞ「ハイ」アノウ久しく拝聴
仕ります。「ヱハアそれとまひぜ」こち様さん
でございますか。「ハイ」「ヤレ〳〵」そうでございます。こりゃ
見事な「ヱヘヱ」チット高慢者ガトしひさぐこと少しも人中
さ極「うちふまえ」そうう〳〵しく「おるり」ものすごコレサお寄
上級の婦ホマアどうしく「ヨ」とて〳〵ぐ〳〵「ろ」てお出あさい
ます。「さ」入うじゃア何御用お居なさいます。「ハイ」ハ柄の方
ヨ居ますヨ「ハア」そして私ゴ用事とうかもあるめ〳〵ぶ

ゑまとものうんぞ廉「使」まぐも寄るこけ子「娘」「ハイ」
ドやうありませんガトあぐ〳〵ぶ〳〵ぶ〳〵ぶ〳〵「ハイ」
「アノウ」まえ「さん」にチットこのひとあつく寄りました
ガアノウ私ども何所ぞ「ヤ」「ハイ」ぶ〳〵「さん」ゑ「ヱイ」ゼ
りゑアマアどんざゑ〳〵ぶ〳〵「ハイ」「さん」ガ其中ぞ「ハイ」
ゑ「ろ」ても教うう「ハイ」「さん」ゑ「ハイ」ゑ「ハイ」ゑ「ハイ」ゑ「ハイ」ゑ「ハイ」ゑ「ハイ」
よく〳〵ゑこけぞ「ハイ」ゑ「ハイ」ゑ「ハイ」ゑ「ハイ」ゑ「ハイ」ゑ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

春
姿の花
心の見立
此糸
秋
姿の花
心の見立
於由

夏
姿の花
心の見立
あやめ
米八
夕べ
姿の花
心の見立
ゆきの
物
蝶吉

ありイきをつく　ヨヤ〳〵ちのうくんく〳〵どうイ〳〵てママアとく〳〵ヨヤのうち
そ若旦那とさ〳〵くさそうでおやをうそのまま〳〵　ふん　ヨヤ
ちやうの中くらいのうく〳〵と若旦那をいてこのさぶまま〳〵ハママア
おしてこく〳〵ちのうとけでありイきとトいうまてい〳〵ヨヤ　ふん
どんくのうとけ　ヨヤ　ちのいくんエうぎマア私このやうよ
若旦那ぐありちやんどうう移〳〵そしてちくんのゆ若旦那
うさこのまちのく〳〵ちりやさんのうをちやく〳〵アそふ
ざうとそそとに今までとと遠川く〳〵ちやくいあにあひイ

ちやく〳〵のちぎふ絵ぐさけるちやうでありイせんトとも身の
うく〳〵ちく〳〵てちに男ちう会おあうまく雪
端の者ハイチト出発ちさう　蔵八さんのお宅ハこちらくで
どさいちのうまハイとちらくでございちやんヘイさちうちうばか先
こさいトへちうくハ樽りハ山ちのハ貝ぢやくえとちヨヤ
ちうまさん　ヨウリ　ちのくんやくく〳〵とりやうさぞく　おあく
さんぐいくッちうりやア何ちかちのちんこうけぐイさまぐ見
ちうさいちりーとる　サアく〳〵こちらくかおまさいちー　ア

イエモウあるまじきの事さうにて候ふ
せんぎ　さて私やうさつぱりぞんじまいらんぞ山号
助さんのゆくえの事ちとおもやくそくとの
てをきまいらんぞつのぞきまぢかくなりもものぐ
しくこざるとあくにんまいと因縁さんとう
後者のまさんぞうまいらんぞ岩子
と何ものとまぢかくなりの若旦左さえ
てぞうと所まれ秘さんもおうくなりぞし

まさんぞ出家とおもうまさまとやとそまの秘ぞ
義りやのてそまろう出家まつくんの三歳日さしかさう
まろくとおもう名唐琴の方へ寄合つく御人合の
うちさんぞう中脇目さるつくりんとあびつうりさしやうく今日毛
らへまるのまさんぞうまりまさんのこと
後のの方のもつとものこうりイしぞ唐琴ぞうしイ
あと　まぞこちらぞうやりの春で毛のまけさま
まのるとやてまちくさうまぞのこと　イエく

ことぶくるみてことぶくいはせん大夫
「ヨヤ申んざいはせ
「イエモシ旅よきものつぶまてあるく
今の且那ハ後ろ
そうぶぶあるやアモシ古鳥左文ちとく遊人の引ぐそうでご
せごはん
「ヤ イそんるう本庄ろうけこ男ちゑどんハ遊人で
ひのまはこと
「そうやアマア大変なことでございはと
「ぶうしてあるこことくとる美の者さんのゆゑよ居こ男ぶ
松ちゑのよゆゑ者でもとぶ本恵さ多ろ頼
てををろうぶんくあるるまをすまこそうでごぜくまをを西表

唐琴屋ハどうもむづかしうの拵ものどうろうそうも
あいとうの場でございはまを今まこ他でをるを
きけバ椿沢古郎さゑぶそのまくうれおちくべぐ唐琴
屋の家の娘と用くでおくぶひをさまをそうぶ古鳥
左文ちゑ用ハ鬼ちゑ浪見ゆゑ本部よくうまひるく部紙
ハその家付の娘と本庄ござるぶろうとうをるを
きてきくくぶそうくてアんまびおくうんのおまのうへも
ぶうろうを稼く方ぶ付きをせうらいづをあくうんハまさんの

万へお出なさるこけでご世へまれとう子へそうゆうイまと
嬉しい様へ喜へそまさへお悔メヤせば妻に方をつけまいづ
モシこうこくしやうけ半の作者に頼まそそくも居りまを
うもうん聖堂をあとらやこうこうしてうふまをあう
マアノ喜兵の喜則がごうろくおめでさいづま迎月何も
世おうるる揚ふうり半せうトいうこうそそくよ論る
ど吉孝甚ほしけ糸お賜ごそうこうびも悔びいきむまのう
やでうく開く掛でようこ吉日ふくそまくよおうるう家の
大墨成こうよるせば彼お由八茂兵衛ご妻とうり又代
いと糸八半こそ墨ご方へ行お賜ごそ半生八こまとうり後ご帝成
清の正しまうく迎常ご程うるよう相こうり丹波帝ご
工成内く世紀ようりし恩とうひ操めでこき娘うまば
兼四墨ふうこごと我ろ丹波帝ご別居ょ名波成こうる
ひ那うるひ整昌の墓成ひうく財ふ除んでお賜八幸妻
とうり来八もひうこうこうね貞実うまば親の吉郎へ
おまこうくお紙屋さうとうやまうまこづまもその中昭

あんぶう いとゑを すうて すきの移判人お義人ハいづきも
めでたくさろくまさと義人ハそまを〳〵よ羅紙うゝもり 同人の女
〳〵 ざらち 三番目紙第一とゝ〳〵 此番紙二ぢんとゝ〳〵 三番目紙第八
とゝ〳〵 同人見紙お蝶とさでゐ 第の彩色んろく 門こハ姉妹
のやくとゝ〳〵 ろ宝おゐ〳〵まうけつく 幾代ゐゐる春の
梅実り紙ろゝよ 寿ろくめでたく第ゝ紙おさめさでりね

春色梅児誉美美の十二大尾